

マキノ病院ニュース

第126号

— 令和5年4月1日発行 —

これからの新型コロナウイルスとの付き合い方

院長 西村 彰一

3年以上にわたり世界を翻弄してきた新型コロナウイルス感染症は、ゴールデンウィーク明けより法律上はインフルエンザと同等の5類感染症となりま

す。当初は重症化率も高く、警戒すべきウイルスとされ、感染者の隔離などが必要な2類感染症相当の位置づけとされました。しかし、オミクロン株以降はウイルス自体の弱毒化、ワクチン接種などが相まって重症化する人はほとんどなくなり、5類感染症へ移行します。今後の新型コロナウイルスとの付き合い方を考えてみたいと思います。

5類感染症への移行後は感染者の隔離や、濃厚接触者の自宅待機の必要もなくなり社会経済活動にはプラスに働くと考えられますが、感染対策が緩和されることがにより今よりも感

染が広まりやすい状況になると予想されます。新型コロナウイルスに感染しても通常の風邪と同じような経過で治っていく方がほとんどであり、多くの人はとってはコロナ前の日常を取り戻す方向へ向かうメリットは大きいと思われま

す。しかし、高齢で体力の低下した方に感染すると、感染を契機に体調が更に悪化し命にかかわることもあります。従って重症化リスクのある人は、ご自身を守るため感染対策を継続する必要がありますし、病院や高齢者施設など重症化リスクを持った人の多い集団でも感染対策の継続が必要です。当院も基本的な感染対策は引き続き行いますので、入館前の手指消毒、マスクの着用をこれまで通りお願いいたします。

今後とも感染者は増減を繰り返し、新たな変異株が出現した際には再び大きな流行が起

こる可能性が高いと予想されています。従って、ワクチン接種は今後も必要であり、特に重症化リスクのある方はワクチン接種を施行すべきと考えま

す。今年度も、すべての国民に自己負担なしで新型コロナウイルスワクチンを接種できる「特例臨時接種」が延長されます。重症化リスクの高い高齢者（65歳以上）や基礎疾患を有する人、および医療従事者は年2回、その他の人は基本年1回の接種が可能となります。

新型コロナウイルス感染症の今後を、WHO（世界保健機関）はいくつかのシナリオを作り予想しています。最悪のシナリオは重症化率の高く感染力の強いウイルスに変異し、再び脅威となるというものです。可能性はかなり低いとされています。

最も可能性の高いシナリオは、「今後も断続的にそれほど深刻ではない感染拡大が引き起こされるが、ワクチン接種や感染による免疫の獲得により、重症度が時間とともに低下する」としています。感染力、重症化率がさらに低下して、可能性が高いとの予想です。このようにして、一般の風邪と何ら変わらぬ疾患になることを期待したいと思います。

この4月より内科常勤医として林修平先生が復帰されます。また、看護師、リハビリ職員、社会福祉士にも新入職員を迎えます。新たな力を得て、これからは、安心・信頼・満足を得られる病院づくりを目指して、職員一同努力して参ります。地域の皆様の一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

ドクターコーナー



尿病、慢性腎臓病、肥満、高尿酸血症らと共に脂質異常症が挙げられます。

脂質異常症は自覚症状がほとんどなく、血液検査で総コレステロール、中性脂肪(トリグリセライド/ TG)、HDLコレステロール、LDLコレステ

糖尿病や慢性腎臓病、高血圧等のリスクがある方は治療の必要がある場合があります。すでに脳梗塞や心筋梗塞を起こされた方は、再発の防止のためにより厳格に治療を行う必要があります。

治療は生活習慣の改善が基本で

脂質異常症に関して 内科 小林 玄樹

現在日本は超高齢化社会となっており、脳卒中や心臓病といった動脈硬化性疾患が死因の上位となっています。これら動脈硬化性疾患は介護が必要になったり再入院を繰り返すなどするため、その予防が非常に重要です。動脈硬化性疾患の危険因子として喫煙、高血圧、糖

コレステロールといった脂質を検査する事で診断します。生活習慣以外に甲状腺などの内分泌疾患、腎疾患や肝疾患、薬剤、遺伝なども原因となることがあります。無症状で今までに脳梗塞や心筋梗塞などの動脈硬化性疾患を起こされていない方でも、

あり、禁煙、食事療法、運動療法を行います。内臓肥満がある場合にはまず体重の3%の減量を目標にします。食事の注意点としては過食を抑え適正体重を維持する事、肉の脂身や動物脂(牛脂、ラード、バター)、乳製品の取りすぎに注意、

魚や大豆の摂取を増やす事、野菜や海藻、キノコ類の摂取を増やすこと、アルコールの過剰摂取を控えること等が挙げられます。運動療法としては、ウォーキングなどの有酸素運動をメインに、1回30分以上を目標に行います。30分連続でなくても、短時間の運動を数回に分けて行ってもよく、毎日が難しい場合も週3回を目標に行います。生活習慣の改善で脂質管理が不十分な場合は薬物治療を行います。特にLDLコレステロールの低下により心

血管疾患や総死亡率、脳梗塞発症抑制効果が期待できるため、定期的に血液検査を行いながら経過を見ていきます。生活習慣以外の病気が原因となっている場合はその治療で改善する事がありません。

脂質異常症は早期の介入が重要で、高血圧や高血糖などの動脈硬化性疾患の危険因子との合併も多いです。食事療法も医師や管理栄養士と相談しながら個人個人ごとの生活スタイルに合わせて継続する必要があります。また重篤な心疾患や重症の高血圧、腎不全がある場合など運動を行ってはいけない場合もあるため、症状はないけど健康診断で脂質異常があるといわれた方や、以前治療をしていたが通院が途切れたりしている方などは是非お気軽にご相談ください。

診療科のご案内
内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科・総合診療科
肛門外科・泌尿器科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科
【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —
平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00
滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099
ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>